

令和6年度（2024年度）管内道德教育パワーアップ研究協議会

令和7年2月4日（火）

北海道教育庁渡島教育局教育支援課義務教育指導班

令和7年1月23日（木）、道德教育推進教員及び市町学校教育担当者を対象にオンラインで、「令和6年度（2024年度）管内道德教育パワーアップ研究協議会」を開催しました。

北斗市立久根根小学校の第5学年及び八雲町立野田生中学校第2学年の道德科の公開授業をオンデマンドで事前に視聴し、当日は、道教委指導主事による説明、公開授業に係る説明及び質疑応答、今後の道德科の授業づくりについてグループ協議を行いました。

本資料では当日の様子の一部をお伝えします。

<小学校公開授業について> 北斗市立久根根小学校 杉下詩織 教諭

- 1 主題名 「自分のよさをみつめて」（内容項目：A-4 個性の伸長）
- 2 教材名 「たからもの」（出典「小学道德5 はばたこう明日へ」教育出版）
- 3 本授業のポイント
お母さんの気持ちに着目させる発問を通して、長所に気付くことのよさについて考えさせるとともに、その長所を大切に伸ばそうとする「わたし」についての発問を設定し、長所を伸ばすことについて考えを深められるようにしました。

<中学校公開授業について> 八雲町立野田生中学校 加藤俊介 教諭

- 1 主題名 「郷土のために生きる」（内容項目：C-7 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度）
- 2 教材名 「野球を愛し、野球に愛された北の球聖 久慈次郎」（出典「北海道版道德教材 きたものがたり」北海道教育委員会）
- 3 本授業のポイント
身近な教材（道南に関係すること／人）（野球）を活用することにより、教材への興味・関心を高め、道德的価値の理解を図るとともに、ICTを活用した意見交流を行い、周囲の意見を参考にしながら自身の考えを深めさせるようにしました。

<当日の様子について>

【説明】

「道德科の特質を生かした授業づくりのポイント」の1つとして、性急に態度の変化や心の変容を押し付けることなく、道德的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを確かに想起したりすることができるように指導することで、一人一人が、自分の生き方について考えを深めることの重要性などについて共通理解を図りました。

2 授業づくりのポイント

- ⑤ 自己の（人間としての）生き方についての考えを深める

「今までの自分は、こういうことを考えずに過ごしていたな。」
「道德的価値のよさは、わかった。自分に生かしていければいいな。」
「自分のよさや至らなさについて考えられたな、さっそく実践していくぞ。」



一人一人が、自分の生き方を考えることが大事。
性急に態度の変化や心の変容を押し付けない。

道德科の授業の課題について

- 読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始する指導
→ 道德的価値を他人事として捉え考えるような授業

- 望ましいと思われたいことや決まりきったことを言わせたり、書かせたりすることに終始する指導
→ 特定の価値観を押し付けるような授業

このとき、主人公はどんな気持ちだったと思いますか？

教科書に〜書かれているから、〇〇な気持ちだと思えます。

う〜ん、他にはどうですか。

あれ…？先生が言っているのは、この気持ちじゃないのかな…。

【協議】

上記の説明を踏まえ、今後、意識したいことについて協議しました。

- ・ 道德科の授業が、教育活動における道德教育を補ったり、深めたり、相互の関連を統合・発展させたりする役割を果たせるようにする。
- ・ 道德教育推進教師として、教科等横断的な視点でカリキュラム・マネジメントを図る。
- ・ 登場人物の心情理解のみに終始しないよう、道德的価値について自分ごととして考えるための発問を工夫する。

【アンケートから】

- ・ 事前に授業動画の視聴をしたことにより、自分自身の授業を振り返るきっかけとなりました。
- ・ 「特別の教科 道德」授業づくりハンドブックを踏まえた授業づくりのポイントを知り、道德の授業の目標、道德的価値の捉え方、授業づくりの具体が理解できました。
- ・ 学校行事の時期に合わせた教材選択の必要性など、道德教育がもっと子どもたちの身近なものとなるようにするための取組を考えることができました。